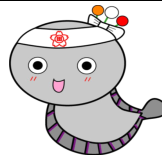




御在所の風



志布志市立田之浦小学校
学校だより 文責：川邊真人
令和6年2月20日発行

教育目標
めざす子どもの姿



「心豊かでたくましい体をもち、自ら学ぶ『田之浦の子』を育成する」

- 【やさしく】 思いやりの心をもち、相手を尊重できる子
- 【かしこく】 自ら学び、考え、粘り強く学習を続ける子
- 【たくましく】 命の大切さを知り、自ら鍛える子



田之浦ダゴ祭りに思う

新しい年を迎えたと思っておりましたが、あっという間に1月が行き、2月が逃げようとしています。このままいくと、3月もあっという間に去っていくのでしょうか。テレビや新聞等では、桜の開花宣言の予想をはじめ、梅やモクレンといった木々の開花を伝える話題がにぎわっています。もう春も、そこまでやってきているようです。

さて、そんな中で、2月4日(日)は、平成3年(1991年)から県指定文化財に指定されている「田之浦ダゴ祭り」が開催されました。ダゴ祭りは、県内一早い春祭り行事といわれ、その年の豊作を祈念する農耕の祭りです。当日は、天候が心配されましたが、見事に前日までの雨もやみ、会場には地域内外から多くの観客の皆様、マスコミの皆様がいらっしゃいました。この祭りには、田之浦小学校も、地域の皆様の御指導、御支援をたくさんいただき、「子供神楽」はもちろんですが、この祭りの主役「ダゴ花」も奉納をさせていただきました。

まず、2月1日(木)は、通用門の飾り壁や門松でお世話になった山中満夫さんの御指導のもと、ダゴをさす竹串の「ひらひら」作りと「しで」の飾り付けに挑戦しました。特に「ひらひら」作りを担当する子供たちは小刀を使う作業でしたが、山中さんの器用な小刀さばきを観察し、四苦八苦しながら子供たちなりに心をこめて作ることができました。

次に、2月2日(金)は、「ダゴ作り」です。井久保修二校区公民館長さん、御在所会の皆様の御指導のもと、紅白のダゴを作りました。御在所会の皆様との会話も楽しみながら、ダゴをこねる子供たちの表情は、真剣そのもの。かわいい紅白のダゴができました。

そして、いよいよダゴ花の土台となるツトに飾り付けです。ピーマンやきんかん、たくわんも入れて、竹串にダゴを取り付け、飾っていきます。緑、黄、赤、白…。たくさんの色に包まれたツトは、大きなダゴ花になりました。心をこめたダゴ花は、きっとたくさんの人に幸せを分けたことでしょう。

今年1月から神楽の練習を始め、奉納するダゴ花の準備。そして、たくさんの人に見守られながら神楽を舞った子供たち。この田之浦の地に続く伝統のお祭りの一端を担わせていただいた時間は、子供たちにとって、何事にも代えがたい時間になりました。ふるさとに親しみ、ふるさとを愛する心、そして行事をやりきったことへの自信…。子供たちを確かに成長させてくれる体験でした。

また、それと同時に思います。田之浦地域は、少子高齢化の波が押し寄せています。学校も、地域の悩みと同じで、児童数の減少が心配です。この祭りを続けたい…。守らないといけない…。子供神楽も思いっきりやらせたい。そのためには、人の営みが必要です。これから先も、この祭りを守っていくために、今学校は、何をしなくてはならないのか…。これから学校は、地域の方々と一緒に、どうしていけばよいのか考えていかななくてはならない…。ダゴ祭りが終わり、今思うことです。



【ひらひら作り】



【しで飾り付け】



【ダゴ作り】



【ツトへの飾り付け】



【幣(ひ)舞】



【児鬼神(こきじん)舞】



【巫女(みこ)まい】



【岩戸(いわど)潜り舞】